

わくわく国際交流

深川国際交流協会 広報誌 Vol.3 (初夏号) 1998.5



深川国際交流協会 設立から1年が経過

～ 総会の開催 ～

4月20日(月)プラザホテル板倉において、深川国際交流協会の総会が開催されました。

総会に先立ち各部会が開催され、新年度の事業について検討がなされ、引き続き総会が開催されました。

渡辺事務局長の司会ではじまり、芳賀会長の挨拶、大西助役からの来賓祝辞に続いて、議長(小滝理事長)により議事が進められました。

《これまでの取り組みの経過》

年月日	取り組みの内容
1997年3月27日	深川国際交流協会設立総会を開催
1997年4月1日	第1回国際交流協会理事会を開催
1997年4月20日～	フレーザーバレー大学カールトン・ティープス氏一行来深
1997年5月3日～	フレーザーバレー大学学生4名、教員1名(リンダ・ブラウン)来深
1997年6月3日	第2回国際交流協会理事会を開催
1997年6月14日	第1回青少年カナダ交流訪問団事前研修 インターナショナルデーを開催
1997年6月21日	第2回青少年カナダ交流訪問団事前研修
1997年6月28日	第3回青少年カナダ交流訪問団事前研修
1997年7月5日	第4回青少年カナダ交流訪問団事前研修
1997年7月12日	第5回青少年カナダ交流訪問団事前研修
1997年7月19日	第6回青少年カナダ交流訪問団事前研修
1997年7月28日	第7回青少年カナダ交流訪問団事前研修
1997年7月30日 ～8月12日	青少年カナダ交流訪問団を派遣
1997年8月18日	第1回青少年カナダ交流訪問団事後研修
1997年8月23日	第2回青少年カナダ交流訪問団事後研修
1997年8月27日	国際交流協会広報誌(創刊号)の発行
1997年8月29日	第3回国際交流協会理事会を開催
1997年9月12日	第4回国際交流協会理事会を開催
1997年10月8日	第5回国際交流協会理事会を開催
1997年10月9日 ～13日	拓殖大学東京本校留学生のホームステイ受け入れ
1997年10月16日 ～19日	道高P連等が主催するアメリカ・マサチューセッツ州 スプリングフィールド市の方々のホームステイ受け入れ
1997年11月3日	第3回青少年カナダ交流訪問団事後研修
1997年11月7日	国際フレンドシップフォーラムを開催
1997年11月13日	「深川市とカナダ・ブリティッシュコロンビア州 アボッツフォード市との国際交流姉妹提携の提言書」
1997年11月22日	第4回青少年カナダ交流訪問団事後研修
1997年11月23日	青少年カナダ交流訪問団報告会を開催
1997年12月26日	国際交流協会広報誌(第2号)の発行
1998年3月16日	国際交流協会役員会を開催
1998年3月16日	ホストファミリーの集いを開催
1998年3月17日	第6回国際交流協会理事会を開催
1998年4月20日	国際交流協会総会

《決算および予算》

【収入の部】

項目	1997年度 決算額	1998年度 予算額	摘 要
会 費	882,000	882,000	個人会費 ¥3,000×94名、賛助会費 ¥10,000×60口
委託料	500,000	500,000	深川市より
負担金	1,200,000	1,200,000	海外派遣個人負担金 ¥150,000×8名
補助金	3,300,000	3,424,000	深川市より
寄付金	61,648	60,000	
雑収入	701	1,000	預金利息
前年度繰越金	0	932,319	
合 計	5,944,349	6,999,319	

【支出の部】

項目	1997年度 決算額	1998年度 予算額	摘 要
事業費	4,860,882	5,424,000	
カナダ派遣費	4,649,742	4,774,000	青少年海外派遣事業
交流会費	202,740	500,000	インターナショナルデー、フレンドシップフォーラム、 ホストファミリーの集い、講師謝礼他
その他事業費	8,400	150,000	広報誌他
事務費	6,500	50,000	通信費、備品他
会議費	144,648	300,000	総会、理事会、各事業部会等会議費
予備費	0	1,225,319	
合計	5,012,030	6,999,319	

《1998年度事業計画》

1. 市民国際理解を深める事業
- (1) 国際交流市民の集い開催事業
- ★ 講演会やシンポジウム形式でいろいろな視点から国際化を考える場を提供
- (2) 外国人とのふれあい事業
- ★ インターナショナルデーの開催
 - ★ AET（外国人英語指導助手）とのふれあい事業の実施
- (3) ホストファミリーの集い開催事業
- ★ ホストファミリー研修会&交流会
- (4) 英会話教室開催事業

3. ホームステイ受入れによる交流事業
- (1) フレーザー・バレー大学研修生受入れ事業
- (2) 拓殖大学留学生受入れ事業
- (3) その他留学生等受入れ事業

4. 国際交流の基盤づくり事業
- (1) ホストファミリー登録事業
- (2) 通訳・翻訳ボランティア登録事業
- (3) 協会広報誌発行事業

2. 市民の海外派遣による交流事業
- (1) 青少年海外派遣事業
- (2) その他関係団体の海外派遣事業との連携

《総会ダイジェスト》

議事の1番『1997年度事業報告及び決算報告について』は、事務局長及び坂本事務局次長から説明され、次のような質問、意見等に対する回答があり提案どおり承認されました。

【主な質問・意見および回答】

質問：11月13日に当協会から「深川市とカナダ・プリティシュコロンビア州アボツフォード市との国際交流姉妹都市提携の提言書」を市に提出してから急速に姉妹提携の話が進展しているが、その経過について。

またどのような交流を目的としているのか。

回答：拓殖大学とフレーザーバレー大学との交流、1996年度のカナダ市民交流調査団派遣、1997年度のカナダへの青少年海外派遣等、各種の交流事業を経て、遂には深川市とカナダとのソロプチミストが姉妹提携を行うというように、市民団体の交流にも急速に広がっていると行政も認識しています。

1997年度にはカナダ親善交流訪問団として、市長を始めとする各界の代表者がカナダを訪問し、アボツフォード市との親交を深め、アボツフォード市側も深川市との姉妹提携に向けて積極的に進めていることから、両市が姉妹提携を行い、民間及び市民団体の交流に安心感を与えることが急務と判断され理事会で決定したものです。

姉妹都市提携については、フレンドシップの延長として多方面での交流を期待しているものです。姉妹提携により何をするかではなく、また1国1地域に限定するものでもありません。

意見：「提言書」については協会全体のものであり、会員への情報周知の無いまま、理事会だけで決定し提出するものではなく、総会で承認されるべき事項ではないかと考えます。

回答：「提言書」に関わる取り組み経過においては、会員の皆さんへの配慮が無かったと思います。今後につきましては、広報等でも広く伝えられるよう配慮していきたいと思えます。

議事の2番『監査報告』は、遠藤、加賀美両監事が急用により欠席されたため、事務局長が代読により、監査報告が了承されました。

議事の3番『規約の改正について』は、事務局長から理事長の補佐役として副理事長をおき、理事長の負担の軽減等を図ることについて提案があり、了承されました。

議事の4番『副理事長の選出について』は、事務局から1997年度も理事長代行として活躍していただいた、谷口、板倉両理事が推薦され、承認されました。

議事の5番『1998年度事業計画及び予算(案)について』は、事務局長及び事務局次長から説明され、次のような質問、意見等に対する回答があり提案のとおり承認されました。

【主な質問・意見および回答】

質問：協会で「提言書」を提出しているにも関わらず、姉妹都市提携に関わる事業及び経費が事業計画及び予算書に一切無いのはどういう考えか。

また本年度、アボツフォード市への調査訪問団に協会から3名の方が派遣されるということも、協会全体が知っておくことではないか。

回答：調査訪問団については行政側で派遣する事業であり、派遣日が迫っていることもあり、派遣者の選考依頼を受けて短期決定を要したことから急遽、理事長、理事長代行に集まっていたら、これまでにカナダを訪問したことが無い方の中から、男1名、女2名を選考決定しています。

本事業は行政が派遣する事業であるため、目的を全て明確には把握しているわけではないが、これまでの経過から一歩進んだ取り組みとなるものと考えています。

意見：意見として言わせていただくな、理事会で単に集まって決めていくのではなく、情報は公開されるべきだし、会員の全てが周知する、それが国際交流協会であるべきと思う。

意見：事業計画の2.市民の海外派遣による交流事業の2番目に「姉妹都市提携に関わる事業との連携」を入れてはどうだろうか。

回答：本年度については姉妹都市提携に関わる事業について、協会として関連してくることがあることから、予算でもお分りのとおり予備費に余裕を持たせるよう配慮しており、柔軟に対応していきたいと考えておりますので、理事会で整理させていただきよう願いたい。

意見：意見としてお話ししますが、相手が望むものが見えなければ、何をしてもよいか分からないのは当然のことです。

姉妹都市提携後に、余り無理なことをしても疲れてしまい、とても長続きはいたしません。カナダ側は、余り多くはできないと思います。

質問：前年度の青少年海外派遣において、派遣者数が少ないことから選考に苦慮したことを聞いており、今年度は2名増を予備費で対応することができないものだろうか。

回答：この事業は、市からの補助金により賄われ実施しているものであり、新年度の補助額も既に決定されていることから、人数の増加は経費の面からも、新年度については増加できないことをご理解していただきたい。

議事終了後、谷口、板倉両副理事長から就任のご挨拶をいただき、盛会のうちに総会が終了いたしました。

引き続き、土門理事の司会で交流会が石川副会長の乾杯に始まり、和やかに懇談が続くうちに、拓殖道短大北村副学長から結びの言葉をいただき閉会いたしました。



ホストファミリーの集い

ホストファミリーの集いが3月16日夜、プラザホテル板倉で開かれました。

昨年ホームステイを受け入れた協会員を中心に、これからホストファミリーを希望する人たちが集まり、会食しながら体験談や感想など語り合う

目的で、初開催のこの日は協会員ら約30人が集いました。

5月の連休明けから約2ヵ月訪れるカナダ・フレーザーバレー大学の留学生5人についての受け入れ案内などが行われました。

深川を懐かしみ再び訪れていた、

写真はホストファミリーの前田さんとグラハム・トラバースさんです。

昨年の留学生の1人であるグラハム・トラバースさんもホストファミリーの集いにかけてくれました。グラハムさんは参加者と食事しながら、「ナットウ、ウメボシが好きです」などと会話を楽しんでいました。

今回の初夏号では、ホストファミリーをつとめた前田さんの感想、深川市 AET (英語指導助手) 2 名の感想、カナダからの研修生について



ホストファミリーをつとめて

前田 史恵 (文光町 20 番)

若葉が輝く頃、うす茶色の髪をなびかせ、にこやかに笑う青年が来ました。少々緊張しながら互いにさし出した手を握り、『How do you do!』

ホームステイの始まりです。

彼は長旅の疲れも見せず家族の事、自分の事など話しました。聞き慣れぬ英語は『???』ばかり頭をよぎります。次の瞬間、1ヶ月もやっていけるのだろうかと不安になったのです。

ある日、『オオキイ、リンゴオー(大きいりんご)』と変な言い回しで話すのを聞いて子供達は大笑い。すっかり緊張もとれ、グラハムの人柄が

空気をやさしく包んでくれたのです。

自分の思いを伝えたい。だから、ありったけの単語を並べジェスチャーし、お互いに辞典を引き合いました。それが1週間もすぎると耳が慣れ、また、こちらの言う事も相手に伝わっているようでした。グラハムがとても友達が多かったのは、日本人気質に近いものがあって、周りを楽しくさせる雰囲気があり、何よりとても機転のきく人でした。

グラハムに声をかけられ、モジモジしていた子供達も、グラハムが再来日すると聞いた時、とび上がって大喜

びしたのです。それだけ人を引きつける人でした。

帰国する前日の夜、自分で包装したデコボコの箱を私達にプレゼントしてくれました。そっと開けると、中から彼が作ったプラモデルの飛行機が入っていました。

今度会う時は、きっと立派なパイロットになっているのでしょうね。

その飛行機にはメッセージが書いてあります。

『Thank you for everything! Graham』



AET in Fukagawa

(感想文は、本人の日本語原稿をもとに掲載いたしました。)

ウエイミラー・トビン・エリック (WEYMILLER TOBIN ERIC) 出身:アメリカ合衆国

April.4.1998,4:30am, 私は 1,721m で利尻山の頂上から SUNRISE (朝日) を見ました。

『IT WAS THE MOST BEAUTIFUL SUNRISE I HAVE EVER SEEN』

その時に、自分で「今の生活にとても満足しています。」と言いました。

5年前にはじめて日本に来ました。その時から HOKKAIDO に住みたかったです。

『IT WAS MY DREAM』

HOKKAIDO のことは、いつも DREAM をしていました。DREAM でいろいろ見ました。たとえば、広い田舎、やさしい(FRIENDLY & KIND) PEOPLE、BEAUTIFUL NATURE、たくさん OUTDOOR SPORTS と超 COLD WINTERS (I LOVE WINTER)。

去年の 8 月に私は、とうとう HOKKAIDO に来てせいこうしました。FUKAGAWA CITY に着きました。その時に DREAM の事がぜんぶ CATCH しました。DREAM の VISION は生活になりました。だから、その時から DREAM の中に住んでると思います。FUKAGAWA で、どこでも、だれでも、何でも好きです。いつも忙しいですけど楽しんでいきます。すごくいい FREINDS もたくさんできました。ほかの GAIJIN (NICK“DICKY”DUNN) もいい FRIEND です。どこでも、だれでも、何でも好きです。

それで今まで、いつも“ITCHY FEET (かゆい足)”がありました。いつも別の所にひっこしたかったです。けど、今は FUKAGAWA での生活を楽しんでいます。だから、来年か再来年まで FUKAGAWA (MY HOME IN JAPAN) にいるつもりです。

今まで THANK YOU VERY MUCH!!

今からよろしくおねがいします。

利尻山を下りる時にぜんぜん悲しくなかったです。SUNRISE は WONDERFULL でしたけど、私の生活も WONDERFULL です!! だから悲しいの事はできないのです。

『I AM VERY HAPPY IN FUKAGAWA』です。

ダン・ニコラス・ジェームス (DUNN NICHOLAS JAMES) 出身:イギリス

ふかがわはとても住みやすいとおもいます。ひろくてせつびがたくさんあります。ロンドンはちょっと住みにくい。ふかがわはふんいきのいいまちだとおもいます。べんりでいいばしょです。さっぽろやあさひかわや大雪山のちかくです。ふかがわの人々はあいそうがよくて、helpful です。とてももてなしのよい人たちです。今年 4 月に京都に行きましたが、人はちょっとつめたいとおもいます。

ほっかいどうは、とてもきれいなしまです。いままで私は「りしり」や「大雪山」や「とうやこ」や「さるま」に行きました。とてもきれいでした。

日本でたくさんいい人にあいました。

『It is very easy to work with Japanese people とおもいます.I have a good relationship with my co-workers.Japan is a very interesting place, both the culture and the people.I will always remember my time in Japan,especially in ふかがわ.

I have learnt a lot here from talking to Japanese people or just watching them』



研修生がやってくる

～カナダから来た友人たち～

今年も4月30日に、カナダから研修生がやってきました。5名の学生諸君とシャンクス先生です。研修生諸君は2ヵ月間にわたって、ホームステイをしながら拓殖大学北海道短期大学で授業を受けます。シャンクス先生は、深川市民や拓大生のために英会話や市内の英語指導者のために英語教授法の授業をして下さるほか、カナダ学会北海道地域部会で英語教育に関する講演も予定されています。

カナダから来た友人たちを拓大での生活ぶりを交えながら紹介しましょう。

ジョナサン・シャンクス先生はフレーザー・バレー大学(University College of Frazer Valley, 以下「U.C.F.V.」)で英語を母国語としない人々に対する英語教育を専門とされています。シャンクス先生と拓大のおつき合いは、1992年に拓大の学生がフレーザー・バレー大学で研修に行ったとき、シャンクス先生に英語を教わったのが最初です。シャンクス先生が日本に来られるのは今回が最初になります。

シャンクス先生をはじめ研修生諸君が驚いていたのは、U.C.F.V.のあるアボツフォードに深川市を取り囲む自然環境が良く似ていることでした。また、コンクリートがむき出しの拓大の学内の造りもフレーザー・バレー大学と同じだとのこと。外国での自国との違いよりも共通点の方がはじめは印象深かったようです。

シャンクス先生は専門がらか、英語の発音は日本人が聞いても非常にきれいでわかりやすく、いつも笑みを絶やさぬ温厚な人柄の紳士です。英会話の授業では、受講生が人物紹介をしゃべったり、宝探しゲームで受講生が学内中を走り回ったり、と楽しい授業をしてくれています。そんなシャンクス

先生は、学生・教職員にジョンのニックネームで親しまれています。

研修の学生は5人ともU.C.F.V.の学生で、女子学生がジャーナル、ボニーの2名、男子学生はジェフ、マイク、マサオの3名です。

ジャーナルは今年U.C.F.V.を卒業したばかりで、歴史学・心理学を専攻していました。旅行が好きで去年の夏はヨーロッパ中を回ったそうです。

ボニーは在学中で歴史学を専攻しています。拓大でのスケジュールが多すぎてちょっと根をあげています。

ジェフは哲学・政治学・経済史などを勉強していて、大学の研究者を志しています。後でお話しますが、さっそく貴重な経験を日本でしました。

マイクは歴史学を専攻しているU.C.F.V.の3年生です。最初にお世話になったホストファミリーの家庭では子どもたちのおもちゃにされて、しょっちゅう子どもたちの乗るお馬さんになったり、肩車をしてあげたりしていました。

マサオは犯罪学を学んでいます。大阪出身なのですが、2歳の頃カナダに引越して国籍はカナダです。日本語はすっかり忘れてますが、漢字で自分の名前は書けます(漢字の書き順はデタラメでしたが)。

このように研修生の専門分野はいろいろですが、みんな明るく個性的です。学内ではいつも学生や教職員とわいわいやっています。平日は、毎朝9時半から日本語の授業を受け、午後には拓大生に混じって授業を受けるほか、日本文化の勉強のため墨絵の実習も受けています。また、火曜日・水曜日にはシャンクス先生の英会話の授業のアシスタントとして受講生の勉強のお手伝いもしています。傍目に見ると忙しそうなスケジュールなのですが、ジャーナルは毎日なにかいたずら

をして人を笑わせたり、一人で笑っていたり、マサオはいつのまにか拓大のバスケットボール部とテニス部に入っていたり、と拓大での生活を大いに楽しんでいるようです。

週末にはホストファミリーの御家族にいろんな所に連れて行ってもらう見聞を広めているようです。マサオは札幌に行って、カナダの3倍ぐらいの値段の音楽CDを何枚も買ってくるし(しかもわざわざカナダの歌手のCDを!)、マイクは妹背牛の小学校・幼稚園に行って、お馬さんがもっとうまくなったそうですし、シャンクス先生は深川でグライダーに乗った写真付きの証明書を皆に見せて興奮しながら話を聞かせてくれました。

しかしながら、事件もありました。研究者を志すだけあって?ナイーブなのか、ジェフが深川に来て早々、アレルギー性の湿疹が出て市立病院のお世話になりました。市立病院でもずいぶん良い待遇を受けたのでしょうか。もちろんホスト・ファミリーの御家族のもてなしのおかげでもありますが、研修生たちに深川の印象を聞くとベタ誉めでした。

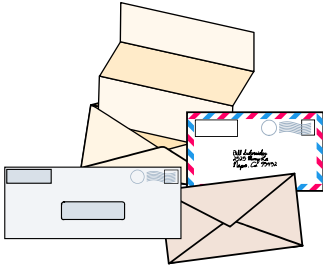
深川の第一印象は?と聞いてみたら、「静かだった」と。そりゃあ彼等が深川に到着したのが夜10:00ぐらいなんだから...。「坂がなくて自転車で街を動きやすい...」ま、印象はそれぞれだけれども...。そんな答えもあったのですが、「過ごしやすい」「治安が行き届いている」「街の人々に暖かさを感じる」等々、深川の良い所もしっかりと、もう感じられているようでした。

たのしい交流が続いています！

昨年、池田さん宅にホームステイし、カナダ訪問（青少年海外派遣事業）の際に森井千夏さん、成田祥子さんのホストファミリーとなった“メリッサ”から、楽しい写真の切り抜きが届きました。

深川やカナダでの楽しい交流の様子がたくさんちりばめられています。

訪問や受入れのときだけでなく、今も楽しい交流が続いているようです。





～ 小泉家のカナダ滞在記 ～

小泉 淳子

えっ、カナダ？

夏休みのある日、夫に電話がかかってきました。「えっ、カナダ？」とか言っているようです。これが今回我が家が四カ月近くカナダで過ごすことになった発端でした。

フレイザー・バレー大学とは姉妹校なので、いずれこんなチャンスも訪れるかもしれないとは思っていましたが、まさかこんなに早く、しかも交換教授という形で舞い込むとは思っていませんでした。もちろん子どもたちは大喜び、独身のときツアーでカナダに行っている私も久しぶりの海外旅行でわくわくです。けれども、落ち着いて考えてみると、四カ月とはいえツアーコンダクター無しで家族だけで生活するという事ですから、海外旅行の経験だけでは見当もつかないことがいろいろと出てきました。

ピザがでない？

まず、ガイドブックを購入しました。観光地のことについてはわかりましたが、当然のことながらふだんの暮らしについてはよくわかりません。前任者で、この制度を始められた小滝先生にもお話を伺いました。海外での経験の長い先生は、いとも簡単であるかのようにおっしゃるので、私のみみっちい質問がしづらくなってしまいました。夫は夫で、向こうでの授業の準備や残務処理などいつもにまして忙しいようです。私も留守中のこと、送る荷物の手配と日時はどんどん過ぎて行きました。就労ピザがなかなか届かず、予定日に出発できなかったというハプニング付きで、とにもかくにも私たち家族四人はカナダへ飛び立ったのでした。

未知との遭遇

バンクーバー空港へは、日本で生活していたこともあるというキャサリンさんとマイケルさんが迎えに来てくれました。私たちがこれから住むことになる大学のゲストハウスに着くと、国際教員部のリンダさんが出迎えてくれました。彼女たちの温かい

笑顔は、『未知との遭遇』である私たちに大変な安心感を与えてくれたのでした。

すごい!!

そのリンダさんが、さかんに「ユアハウス」と言ってくれたゲストハウスは、家の中心に暖炉のある立派なものでした。ことに台所は、16 畳はあるコマーシャルに出てきそうなもので、私の口から何度「すごい」と言う言葉が出たか知れません。冷蔵庫、オーブン、洗濯機、衣類乾燥機、食器洗い機...すべて大型で、収納場所もたっぷりです。これだから家の中もすっきり片付くわけだし、一皿にあれこれ盛って後で洗う皿の数を一枚でも減らそうなんてせこいことを考えなくてもいいのです。ダイニングルームのテーブルもゆったり 6 人が座れるものでしたが、それを私たちは4人で使っていたので、向かいに座った人がずいぶん遠くにいるように感じました。バスルーム（もちろんトイレ付き）が2室、トイレだけの1室あって、誰かが入っていて焦るということは絶対にありませんでした。リモコンシャッターのガレージには大型車を2台入れても余裕だし、今日本でもはやりのウォークインクローゼット、壁面いっぱいの書架など片付かないほうがどうかしているという造りでした。後になって分かるのですが、大きなこの家がカナダではごく普通のサイズで、決して贅沢なものではなかったのです。アパートかと思った家がれっきとした一戸建てだったり、車の2台は当たり前で船を持っている家も希ではありませんでした。

でっかい!!

大型の家には、大型のものを入れるようになっているのです。アポツフォードの街のダウンタウンにはスーパーマーケットを核にしていくつもの小売店や飲食店が集まっています。それをショッピングモールと言うらしいのですが、メインストリートのサウスフレイザーウエイには、そのモール

がいくつかならんでいます。リンダさんとキャサリンさんに、着いた翌日買物に連れていってもらいました。私の連発した言葉パート2「でっかい」「大きい」ではちょっと物足りないのです。野菜や果物はすべてそのまま山のように積んであり、ほしだけ備え付けのビニール袋に入れます。肉はパック詰めになっていますが、1キロ、2キロのかたまりや鶏のももなどは5~6本で1パックです。ウインナーソーセージも1袋1キロです。ホットドッグ用のパンも1ダース入りだからそれでいいですね。ピザはLサイズばかり、牛乳や卵も業務用といった感じのものをみんな買っているのです。それなのに値段は安いし、日本より高い消費税も大方の食料品には全くかかりません。これではなくてはあんなにポンポン買物カートに入れられません。かくして大型冷蔵庫もいっぱいになります。

多国籍なスーパー

ところで、スーパーの商品を観察するとその地域の生活の様子がよくわかるものです。それが外国のスーパーともなれば、興味津々もいいところです。野菜では、もやし、白菜、大根は普通に売っています。大根は、DAIKONと表示してありました。豆腐も立派な木綿や絹ごしがあるし、杏仁豆腐のようなデザート豆腐というものがあるのです。ギョウザやワンタンの皮、海苔、醤油、味噌、インスタントラーメン、カレールーなどがスーパーの棚に並んでいました。米は、実にいろいろな種類のものがあり、ほとんどが細長いインディカ種の中にあって、『國宝ローズ』という奇妙な名前の米が最もジャポニカ種に近いもので、これで作ったおにぎりを持って娘は小学校に通いました。この他にも「アジア食品」と称して、インド、中国、台湾、韓国等の食料品をたくさん売っています。これも移民の国カナダの一側面なのでしょう。実際、町ではターバンを巻いた人をいくらでも見かけるし、立派なシーク教の寺院も建っている

のです。逆に日本にないものとしては、たくさんの種類のシリアルです。シリアルというのは、主に朝食に食べる穀物のことで、コーンフレークもこの中の一つですが、そのまま牛乳をかけて食べるもの、オートミールのようにお粥状に煮るものそれぞれ十数種類はあったと思います。ハム、ソーセージ、チーズの種類が多いのは当然ですが、冷凍食品の種類の高さもなかなかでした。スーパーの話をしたらきりがありません。

子どもたちは大喜び!

70 キロも離れているバンクーバーの日本人学校に通うわけにもいかず、子どもたちは地元の学校に入れてもらうことになりました。親以上に英語の分からない子どもたちのこと、いったいどうなることかと心配していましたが、先生方やクラスの子もたちが本当に温かく迎えてくださって、一度も休むことなく通学できたのです。土・日も学校へ行きたいと言うほどでした。

また、子どもの送迎に関しては、息子と同じ幼稚園に通うクエッサーちゃんのお母さんのアンジェラさんにお世話になりました。何人か子どもが集まらないとスクールバスが来てくれないということで、国際免許証を取っていかなかった私は困ったなと思っていました。夫が講義のときは、2キロほどの道程を幼稚園児の手を引いて歩くしかないかと覚悟をしていたのですが、初登園の日に先生とアンジェラさんが呼び止めて、「3カ月かそこらでしょ。同じ方向だから。」と、送迎を申し出てくださったのです。アンジェラさんは、昨年の夏に和歌山から来た女の子をホームステイさせていたのだそうです。いつもいろいろ話してくれるのですが、よく分からなく歯がゆい思いをしました。そのたび

に、「私が早口だからいけないのよ。」と言ってくれるのです。

娘の学級にも日本人がホームステイしていた家の子がいました。サマンサちゃんは、そのお姉さんに教えてもらってカタカナで自分の名前をかけるのが自慢です。娘と隣どうしの席にしてもらって、大の仲良しになりました。彼女の家に招かれて娘を送っていくと、2階から見張っていたサマンサが大喜びで靴下のまま外に飛び出てきたのにはびっくりしました。カナダでも、私たちがおじゃましたお宅はみんな玄関のところで靴を脱いでいました。サマンサの家では、お父さんがお肉を焼いて晩ご飯までご馳走になってきました。クエッサーやサマンサがうちに遊びに来たこともありました。言葉はあまり分からないのに、子どもたちはちゃんと遊んでいました。

我が家の神様“トム”

次は言葉のわかるお話です。夫の講義の通訳をしてくださったトムさんには家族でお世話になってしまいました。彼はブリティッシュ・コロンビア大大学院修了後、筑波大で4年間学んだという秀才です。フレーザー・バレー大学で非常勤講師をしています。地理学専攻ということで、夫の講義する美術教育は専門外なのですが、自分も勉強するという意気込みで、まず自分が質問して納得してから通訳してくれたそうです。毎週土曜日には、ブリティッシュ・コロンビア大の図書館に行くそうなので、夫が車を出して私たちもくっついていきました。大学内の案内からバンクーバーや隣のリッチモンドなど、さすが地理学専攻とあっていろいろなことを教えてもらいました。カナダとアメリカの国境に沿って走る0アベニュー(さしずめ国道0号線といったところか)という道

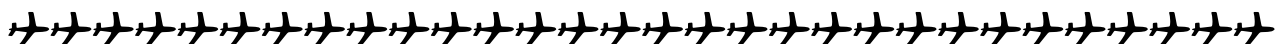
路やリッチモンドにあるヤオハン(経営者は替わっているらしいが、日本食や日本の本を多く取り扱っている)、日本人が初めて移民として住み着いたスティーブストンと言う町…。また、日本語の新聞やパンフレットも見つけるたびに持ってきてくれました。子どもたちのとりとめのない話もきちんと聞いてくれるし、昔の日本人のようにまじめで礼儀正しいトムさんは、英語の分からない我が家にとっては神様に近い存在でした。「チャリンコ」「極楽とんぼ」という言葉まで知っている彼も、別れ際に「私たちはトムさんに足を向けて寝られない」ということの意味は分からなかったようですが、ひょっとすると知っていても日本的な彼のことから謙遜したのかもかもしれません。

すてきな環境

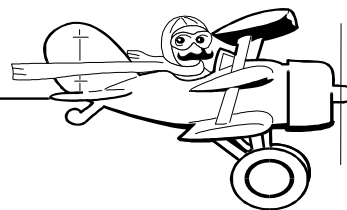
私たちを温かく迎えてくれた人たちはまだまだいます。昨年拓大にいらしていたワイアット先生、今年度の交換教授のシェンクス先生、マッコール先生と奥様のリョウコさん、小滝先生のお嬢さんの蘭ちゃんにもいろいろ教えていただきました。夫の講義を受講していたニューコムさんには、夫や私がいろいろな保育園、小学校、ハイスクールを訪問できるよう手配していただきました。どこもすてきな環境で、子どもたちひとりひとりが大切にされていました。

地球環境のために!

大型冷蔵庫も大型洗濯機も乾燥機も食器洗い機もない狭い我が家に戻って思うことはしかし、負け惜しみながらこれも地球環境のためなら我慢できるなということです。



募集しています！



☺「ホストファミリー」……………現在 41 家族の方が希望しています。

《1997 年 4 月から 10 月までの期間に、外国人を受け入れたホストファミリーの方々を紹介します。（順不同）》

板倉明子さん・谷口保幸さん・坂本龍彦さん・宇野富美子さん・三ツ井隆博さん
中本恵才さん・木下 厚さん・松本佳巳さん・前田暢智さん・嚙田光章さん
滝口八代八さん・北本清貴さん・高桑 清さん・渡辺 優さん・小滝 聰さん
鹿島 稔さん・福井郁郎さん・東出治通さん・笠羽洋一さん・藤岡順子さん
岩本博明さん・清水 勇さん・池田政博さん

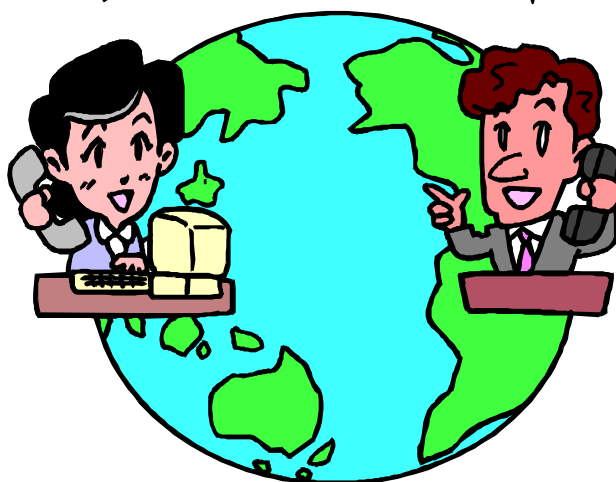
☺「通訳・翻訳ボランティア」…現在 19 名の方が希望しています。

☺「深川国際交流協会会員」……………現在、一般会員は 93 名、賛助会員 58 団体です。

【問い合わせ先】

深川国際交流協会事務局（深川市企画課） ☎26-2215

世界に発信する深川地球市民



【編集担当】

深川国際交流協会 企画広報部会 広報編集委員会

編集長：南部雄二 副編集長：寺下良一

編集委員：池田敏江・上垣由紀子・橋本 信・高橋保之・谷口保幸